

地域別検討協議会学区別検討資料(オホーツク東学区)

オホーツク東学区高校配置計画の見込み												
区分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7~13 (2025~2031) 年までの 増減	令和10~13 (2028~2031) 年までの 増減		
学区内中卒者数	501	480	468	487	432	436	384	388	▲ 113	▲ 99		
対前年増減	+ 51	▲ 21	▲ 12	+ 19	▲ 55	+ 4	▲ 52	+ 4				
網走市中卒者数	(257)	(260)	(251)	(254)	(222)	(227)	(175)	(208)	▲ 49	▲ 46		
対前年増減	+ 13	+ 3	▲ 9	+ 3	▲ 32	+ 5	▲ 52	+ 33				
学校名	令和6(2024)年度の 学科及び募集学級数			R6 (2024) 欠員	令和7(2025) 年度	令和8(2026) 年度	令和9(2027) 年度の見通し	令和10(2028)~13(2031)年度までの見通し		摘要		
	普通	職業	計									
単 網走南ヶ丘	4		4	0			0~1学級 に相当する 中卒者の増	4年間で2~3学級に相当する 中卒者の減		清里の協力校		
網走桂陽	2	商 2	4	50								
総 斜 里	1		1	9								
地 清 里	1		1	17								
総 *大 空	1		1	-1								
5校	9	2	11	75								

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。
 注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「地」は地域連携校。
 注3 学校名の*は市町村立学校。

学区の検討事項と現状・課題

学区の検討事項	現状・課題
○中卒者数の増減に対応しながら、多様な学習ニーズに応える高校配置の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 令和9(2027)年度の定員調整等の検討に当たっては、19人の中卒者数の増のほか、市町ごとの中卒者数の状況、欠員の状況なども考慮した検討が必要 令和10(2028)年以降については、令和13(2031)年までに学区全体で99人の中卒者数の減が見込まれること、特に令和10(2028)年において55人(網走市で32人)、令和12(2030)年に52人(網走市で52人)の大幅な減が見込まれることや、欠員の状況を考慮した配置の在り方の検討が必要 欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要
○地域連携校の導入	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年1学級の高校のうち、地理的状况等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要